

あさっては父の日

校 長 武井 正明

昨日帰宅すると廊下の電球が切れていた。そういう時はいつも親父が予備を買っておい
てくれていた。この二週間は、吉中のみんなに癒された二週間でもあった。

なんであんなに嫌っていたのだろう。

二十歳くらいになるまで、親父の何もかもが嫌だった。山口百恵を「モモエ」と馴れ馴
れしく呼び捨てにするとところも、尊敬する堀内を「堀内クン」と小馬鹿にしたように呼ぶ
ところも、食べる時に音を立てて食べるところも、夜はパチンコか麻雀、酒を飲むと気が
大きくなって、大きな声を出して酔っぱらうところも…。

父が亡くなって16日が経った。帰ると、いつものように耳の遠い父が、音をでっかくし
てテレビのすぐ前に正座しているような気がする。

朝夕は、まだ仏壇に入っていない父と、仏壇のおふくろのふたりに拝むようになった。
気付くと親父に話し掛けている。「…ただいま」「お疲れさまですね」
まだ生きているようだ…。

あんなに似たくなかった親父の嫌なところ。

橋本環奈を「カンナ」と呼び捨てにし、あの大谷翔平を「大谷クン」と呼び、食事の際
は食い意地が張ってよくむせる。酒を飲むと声が大きくなって、この前は店の外まで声が
聞こえてきたと妻に注意を受けた…。

～おやじみたいなヨー、酒呑みなどに、ならぬつもりが、なっていた。

冷房の嫌いな頑固者だった。

昨年夏、クーラーをなかなか言っても点けてくれない。まるで蒸し風呂のような部屋に
いながら、滝のように汗を掻き「逆に涼しい」などと笑うものだから、思わず堪忍袋の緒
が切れた。「死にたいのか!! 俺がどれくらい心配しているのかわかってんのか!! 人をコケ
にするのもいい加減にしろ!! もう絶対に心配なんかしないからな!!」と激怒した。

私のあまりの剣幕に、父はびっくりして「息子のことをコケにするはずなんかないでし
よう!!」と目を赤くして答えた。

この前弟と読んだ、その日の父の日記には「息子があんなに心配してくれているのに、
俺はいつまでたってもダメな父親だ」と書いてあった。

こんなにあつというまに逝ってしまうのなら。

あんなに怒らなくてもよかった。本当に怒りすぎた。ダメなのは俺だ。

死んでから言っても遅い。

仏様のように、あんなに良い親父だったのに…。

俺には優しさが足りない。もっと優しくしてやればよかった…。